

# 「成功の鍵は外部の意見」



6次産業化推進シンポジウムで、販路拡大や事業展開などについて提言する識者ら

十和田

## 6次産業化、識者が提言 シンポ

十和田市は10日、6次産業化推進シンポジウムを、同市の十和田富士屋グラウンドホールで開いた。参加者は農林漁業者が加工・販売まで手掛ける6次産業化事業の成功のポイントについて

て、①地域のもつ産業資源の価値を再認識する②プランナーら外部の意見を積極的に取り入れ、販路拡大の戦略を立てるべき—などの提言が識者から出た。

シンポジウムには市内の農林業、商工関係者や、行

政担当者ら約100人が参加。一般財団法人食品産業センター振興部の二瓶徹主任が「地域で取り組む6次産業化と食産業への展開」と題して基調講演をした。

「6次産業化の実践」をテーマにしたパネルディスカッションでは、同市でカットネギ、ネギみそ製造に取り組む「おいらせ大地」代表取締役の舛館和博さん、6次産業化プランナーとして各地で実績を挙げている「国産」代表取締役の影山恭英さん、二瓶さんが登壇した。

舛館さんは「商談会などに参加するが、すぐに結果を求めず2〜3年先を見据え、販路のデータ収集などをするのも大事」と指摘。コーディネーターを務めた企画会社パワフルジャパン十和田取締役の須田憲和さんは「パネリストからこれからの遠慮なく意見を聞き、いい事例が十和田から生まれればと思う」と話した。

(三上朋徳)